

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 10 月 23 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 9名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3893600019
事業所名	グループホーム慶雲
(ユニット名)	東棟
記入者(管理者)	
氏 名	佐伯 俊治
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 8 日

(別表第1の2)

【事業所理念】 ・笑顔を大切に、自分らしい暮らしを提供する。 ・家族や地域との関わりを大切に する。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ?要介護度に関係なく施設の利用者が気兼ねなく外で過ごすことが出来るように意識して、声掛け・支援していく。 天気の良い日は積極的に声かけを行い散歩をしたり、ベンチに座り日光浴などもしている。自分から外に出られる方には付き添いし利用者のペースに合わせることも出来ている。 ?感染症に対する意識を職員全員がしっかりと持ち、いざという時に落ち着いて対応できるようにしていく。 病気を持ち込まないように玄関先での消毒、検温をしてうがい手洗いを徹底している。委員会や勉強会を通して少しずつ知識を深められている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は山間部の自然豊かな場所に位置し、利用者は季節の移り変わりを感じながらゆったりと生活を送ることができる。事業所の建物は、趣のある日本家屋で、両ユニットを挟むように格子戸の玄関が設置されているほか、大きなテラスから、街並みを眺めることができる。また、利用者が好きなことや得意なことをしながら、楽しみのある生活を送ってもらえるような支援に努め、職員の聞き取りから「自分らしく自由に過ごしてほしい、ストレスなく穏やかに過ごしてほしい」などの利用者への思いを聞くことができた。訪問調査日には、以前ピアノ教室の先生をしていた利用者が、笑顔でリズムを取りながら演奏するとともに、職員に弾き方を教えている様子を見ることができた。さらに、医療機関との十分な連携体制が整備され、平時から医師や看護師から専門的な指示や助言を受けることもでき、希望に応じて、看取り支援にも対応をしている。令和6年7月から新たに赴任した管理者は、日々職員と一緒に業務に従事する中で、職員の意見や提案に耳を傾けながら信頼関係を築くように努め、利用者本位の支援が実践できるように取り組んでいる。加えて、定期的に内部研修を実施したり、希望休の取得を促したりするなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいることもあり、法人内で10年以上勤続する職員も多い。
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の生活の会話の中や家族様から希望などを聞き取り、取り組んでいる。	◎		○	日々の生活の中で、職員は利用者から「楽しく過ごしたい、手伝いをしながら生活したい」などの思いを聞き、介護記録に記載して職員間で共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	意思疎通が困難な方も表情などからみて気づけるようしている。本人様の立場になって考える事が出来ている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	家族様は連絡する機会があるため、出来ている。親せきや友人は面会などに来られていない為、出来ていない。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	聞かれていることをすべて記録できているとは言えない。一部分になっていることがある。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	その都度、本人様の意見を聞き、決めつけないようにしている。やりたいこと、やりたくないことを常に聞いている、。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	一部の人の見になってしまっている。入所される前に利用者様のことを聞いている。			○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、生活歴や馴染みの暮らし方等を聞き、事前調査表に記載をしている。また、入居前に利用していた施設や病院の関係者からサマリーや情報シートなどの情報も提供してもらうようになっている。また、把握した情報は、フェイスシートや事業所独自のアセスメントシートに、医療・精神・食事・排泄・基本動作・入浴・整容などの項目ごとに分けて、詳細な利用者の状況が記載されている。さらに、新たに知り得た情報や既存の内容に変更が生じた場合には、赤字で追記して職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	介護記録など見て、日々の状態観察をしている。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	介護記録を見直しながら変化に気づけるようになっている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の良いいたいことしたいことを聞きながら検討している。			◎	把握した情報をカンファレンスなどの中で話し合い、課題解決や利用者本位のより良いサービスを検討している。また、利用者の好きなことや得意なことをしながら、楽しみのある生活を送ってもらえるような支援に努めている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	職員間で、話し合いをして、調整している。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族などの意見を参考にし、介護記録に反映している。				事前に、利用者や家族から聞き取った情報やアセスメント情報のほか、生活の中で、利用者が発した言葉やくみ取った思い、家族の意向を踏まえて、担当者会議等の中で話し合い、計画作成担当者が利用者本位の介護計画を作成している。訪問調査日には、「他者と協力して職員の手伝いができる、毎日足の運動ができる」など、利用者の意見を反映するとともに、できそうなことに着目した個別性のある介護計画を確認することができた。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の希望や家族などの意向を聞いて職員間で話し合いながら作成している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	以前の暮らしや生活を計画に入れている。状態によってフロアに出てきていただいたりして孤立しないように取り組めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	必要に応じて、家族の協力を得ているが、地域の方の協力までは盛り込まれていない。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアカンファレンスで話し合い、共有している。	/	/	○	介護記録の様式の上段に、介護計画の短期目標とサービス内容が記載され、職員は記録を残す際に計画の内容を確認できるようになっている。また、目標ごとに番号を付けて、サービスの実施内容を記載することで、介護計画に沿った支援が実践できているかどうかを確認しやすいようにしている。また、法人の介護記録の様式はあるものの、効率化や共有のしやすさを職員間で検討し、必要に応じて、随時見直しをする工夫をしている。さらに、利用者の発した言葉をそのまま記録に残すなど、職員は利用者の詳細な状況を記載した記録を心がけている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	短期目標を設定しを実施しているが、その結果の記録が出来ていない。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	毎月、ケアカンファレンスを行い、状態に合わせて見直しを行っている。	/	/	○	6か月に1回を基本に、介護計画の見直しをしている。毎月全ての利用者のモニタリングをして、評価や利用者の現状確認を行うとともに、3か月ごとに利用者の状況等を家族に説明し、意向を確認している。また、利用者の状態が悪化し、医療的な支援が必要になった場合には、随時カンファレンスを実施して計画の見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。本人の意向をくみ取った「早く元気になりたい」という新たに作成した目標を確認することもできた。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	介護記録を参考に、毎月モニタリングを行い、現状の確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態の変化があった場合は、ミニカンファレンスを行い、話し合いを行っている。現状に合ったプランを作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	緊急性があれば業務連絡を行っているが、一部分の方のみになってしまっている。	/	/	○	月1回業務カンファレンスやケアカンファレンスを実施し、職員間で情報共有をするほか、課題やより良いサービスの検討をしている。緊急案件のある場合には、職員間で早急に話し合いをしている。会議には、なるべく多くの職員が参加できるように、時間を固定して18時30分から開催するとともに、参加できなかった職員には議事録を確認してもらい、情報を共有している。また、会議は職員から気軽に意見や提案を出しやすいような雰囲気の中で行われている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	全ての職員が意見を言いやすい環境づくりが出来ている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	業務がすべて終わった夜に行うようにして、出来るだけ参加できるように取り組んでいる。記録を早めに提出し参加できていない人もすぐに見れるようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートや、業務日誌にメモし全体に伝わるようにしている。	○	/	○	申し送りノートや介護業務日誌を活用して、日々の申し送りを実施し、職員間で情報を共有している。また、利用者の支援内容は、カンファレンスの中で話し合い、職員間で情報共有をしている。職員間の業務連絡は、SNSのグループLINEを活用して、迅速に共有できるようにしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	何がしたいか確認し出来るだけ寄り添えるように努力している。	/	/	/	着替えの衣服やレクリエーションの内容、余暇時間の過ごし方、趣味活動など、生活の様々な場面で、職員は声をかけて、利用者自身が好きなものやしたいことの選択や自己決定ができるよう支援している。脳トレプリントには、書写や塗り絵、計算、間違い探しなどの多くが用意されているほか、訪問調査日には、職員から「脳トレに使う鉛筆を削ってもらえますか」と利用者に声をかけて、手伝ってもらう様子を見ることができた。また、以前ピアノ教室の先生をしていた利用者から職員が弾き方を教えてもらい、教え終わった後には職員からお礼の言葉を伝えて利用者の微笑ましい笑顔が見られるなど、思いに沿って笑顔で生活を送ってもらえるような支援にも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	利用者が決定する前に職員が手を出してしまい、決定する機会を減らしてしまっていることがある。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	個人のペースを守ろうと努力するが、時間がないと職員のペースで進めてしまうことがある。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	お手伝いなどしてもらった時に感謝の言葉を伝えたり、職員側も明るく接し、笑顔を引き出すように努力している。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	支援しようとするが、なかなか意思がつかめない。表情や発言から、読み取ろうとするが難しい。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	△	人権や尊厳についての勉強はし、気を付けているが配慮が足りないことがある。	◎	○	○	内部研修や外部研修の中で人権や尊厳等を学び、職員は利用者一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切に支援に努めている。ミーティングの中で、管理者から利用者を尊重した言動や接し方などの継続した指導を行い、職員の理解促進に努めている。訪問調査日には、職員が利用者の気持ちをくみ取りながら、利用者のペースに合わせて会話をする様子が見られた。また、利用者の居室の入室時には、事前に職員からノックや声かけをするとともに、居室の不在時にも、事前に利用者に声をかけ、了承を得てから入室をすることができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレやお風呂の時は入り口を閉めて介助を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室にいるときはノックをしてはいるようにして、部屋のは極力動かさないようにしている。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	外部で話すときは情報漏洩に気を付け、個人名など出さないように気を付けている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	出来ることはどんどんお願いし、協力していただいている。その時に話しながら教えてもらったりもしている。				職員は利用者の性格や関係性を把握し、仲の良い利用者同士で過ごせるように配席を決めるなどの配慮をしている。また、足元の不安定な利用者が立ち上がる際に、隣にいる他の利用者がいすを支えたり、口元が汚れている利用者にティッシュを渡したり、視覚障がいのある利用者に声をかけるなど、日常生活の中で、利用者同士の助け合いや支え合う場面も見られる。中には、介護計画の目標の中に「他者と協力し合う」を取り入れて、職員の見守りのもと、積極的に他の利用者に声をかけたり、下膳などの手伝ったりする利用者もいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の関係性を大切に出来るように努めている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し、席を変えるなどしてトラブル防止に努めている			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルがおきたときはその都度声掛けを行い解消に取り組んでいる。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人や家族との会話の中で本人を取り巻く人間関係の把握に努めている。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	個人的な外出は家族に任せている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外に散歩に行くように声掛けし取り組んでいる。嫌がる方は時間を置いたりなどして出来るだけ外に出られるように努めている。	○	◎	◎	感染対策で外出支援の制限が設けられていたものの、徐々に制限を緩和され、天気や気候の良い日には、日常的に事業所周辺を散歩したり、屋外に出て外気浴をしたりすることもできるようになり、利用者に喜ばれている。また、地域の秋祭りに利用者と一緒に外かけて、獅子舞などの伝統芸能を見たり、地区の運動会で見学や宝拾いを楽しんだり、今後地域の柿祭りに参加予定とするなど、積極的に地域行事に参加することを利用者は楽しみにしている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力への要請も出来ていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	職員によって対応のばらつきがあり、変化に気づけていないことがある。				日常生活の中で、職員は利用者のできることやできそうなことを把握している。自分で食事を摂ったり、排泄時にズボンの上げ下ろしをしたり、入浴時の洗身をするなど、可能な範囲でできることは利用者自身でももらい、職員は見守りやできない部分のフォローをしている。また、生活の中で、リハビリ体操や口腔体操を実施したり、洗濯物たたみや食器拭きなどの生活リハビリを取り入れたりするなど、利用者の心身機能の維持や向上に繋げている。訪問調査日には、昼食に出されたヨーグルトの蓋を一生懸命に自分で開けている利用者を、近くで見守る職員の様子を見ることができた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	リハビリ体操、口腔体操を行い残存能力が残せるように努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来ることや出来そうなことは見守りを行っている、状態によって付き添いは行っている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	1人1人が出来ることを把握してその人の役割や楽しめる事を提供している。				職員は利用者のできることや得意なことを把握し、状況に応じて洗濯物たたみや食器洗いなどの役割を担ってもらっている。「洗濯物はよ持ってきて」と職員に催促する言葉が聞かれるなど、積極的に役割に取り組む利用者もいる。また、移動販売の来訪時には、利用者自身がカゴを持って、好きな物を選びながら買い物をする事ができている。さらに、脳トレで2桁の足し算をしたり、趣味のピアノを毎日弾いたりするなど、利用者が好きなことや得意なことなどをしながら、楽しみのある生活を送れるような支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	出来ることを見つけ、役割としておねがいすることで活き活きとした生活が出来るように取り組んでいる。	○	○	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	衣服や髪形など職員が決めていることが多い。自分で決められる方はして頂いている。				男性利用者に電気シェーバーを渡して髭剃りをしてもらうとともに、職員は剃り残しなどのフォローをしている。寝ぐせや衣服の汚れが見られた場合は、職員がさり気なく声をかけて、自分で髪を手直しをしたり、必要に応じて、居室に移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。定期的に、訪問美容の来訪があり、全ての利用者は好みの髪型や毛染めのほか、時には眉毛などの整容を整えてもらっている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	家族様が持ってこられた服を使用している。あまり好みを聞くことがない。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定がしにくい方は、職員が耳を傾けられるように努力している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	×	エアコンなど空調があるため、冬服の方が多い。季節に合った服装を着られている方は少ない。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	服の汚れなどさりげなく着替えをするようにしている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	施設で決まっている理髪店を利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	出来る範囲整容などで支援しているが本人らしさは保てられていない。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の大切を理解し十分に時間をとれるようにしている。				業者に食材を発注して配達をもらい、利用者に食器洗いやお盆拭き、台拭きなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。法人内の事業所が持ち回りで、献立を作成している。時には、家族から梨やみかんなどの差し入れがあり、食卓に上ることもある。また、いも炊きやおでん、さつま芋ご飯などの旬の食材を使用して食事を提供することもあり、利用者に喜ばれている。茶碗や湯飲み等の食器類は、入居時に馴染みのものを持参してもらったり、事業所で用意した使いやすい物を使用したりしている。利用者の嚥下状態に応じて、看護師や家族に相談し、刻みやトロミなどの食べやすい食事の形態にも対応をしている。食事の際に、職員は利用者と同じ食卓を囲み、楽しく会話をしながら同じ食事を摂ることができている。介助の必要な利用者がある場合には、サポートを優先し、別々に食事を摂ることもある。栄養士までの助言を受けることはできていないものの、献立委員会の中で、食事内容や食事形態等の話し合いをしている。利用者の食事量等で、気になる点がある場合には、医師や看護師に相談し、専門的な指示や助言を受けている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにに行っている。	○	一部の利用者には料理や、片付けなどして頂いている。ゴボウそぎや包丁研ぎなど出来ることはして頂いている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	買い物には出かけられていない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーについては、事前に確認し職員が目の届く場所に記載している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の野菜や家族様から持ってきていただいた果物や野菜を取り入れられている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	1人1人の状態を見ながら食事形態を変えている。歯の少ない方でも、出来るだけ食べやすいように工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶碗や湯飲みなど使いやすいものを使っていたいっている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	その時の状態に合わせて見守りをおこない、食べこぼしをとる等、さりげないサポートをしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	重度な状態であっても体調が良ければ食堂に出てきてもらっている。その日の料理を伝えるなどして雰囲気づくりに努めている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	状態に応じて、量や回数などを工夫している。食事・水分チェック表に記入し工夫している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取量の少ない方は、あらかじめおいておき、いつでも飲める状態を作っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	適宜に話し合いを行っているが、栄養士のアドバイスを受けていない。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	使用直前に材料を取り出すようにしている。時期に合わせて作る時間も変えている。使用後は漂白剤で消毒している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解し、1日3回しっかり行っている。				入居時に把握したアセスメントシートを活用しながら、義歯の有無のほか、口腔内の健康状態を確認している。毎食後に、職員は声をかけ、一緒に利用者と洗面台に付き添って口腔ケアを実施している。月1回職員は全ての利用者の口腔内を確認し、状況を記録に残している。自分で口腔ケアができなくなった利用者には、介護計画に反映させながら身体状況に応じた口腔内の洗浄を行い、清潔保持に努めている。また、義歯の不具合や口腔内の異常が生じた場合には、早期に歯科医の受診や往診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	口腔状態を記録に残している。月に一度口の中に異常がないか確認している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	歯科医や歯科衛生士からのアドバイスを受けていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後は毎回義歯を外してブラッシングをしていただいている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等）	○	必要に応じて歯科医に来ていただいている。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	心身に与えるダメージについては理解しているが、状態によって使用を進めている。納得したうえで使用していただいている。				一人ひとりの利用者の排泄の回数や量などの記録を残すとともに、状況に応じたトイレ誘導や介助などの支援を行い、基本的に職員はトイレで利用者が排泄できるよう支援している。中には、安全面を考慮して、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。また、ケアカンファレンスの中で、利用者の排泄状況や失禁状態、尿量などを職員間で共有し、排泄支援の方法等の話し合いをしている。また、排泄状況に応じて、パッドや紙パンツなどの排泄用品を職員間で検討するとともに、家族に相談した上で使用や変更をしている。さらに、便秘が続き、中には下剤や軟便剤などを服用している利用者があるものの、日中の運動を取り入れたり、腹部マッサージを実施したりするなど、なるべく服薬に頼らずに、利用者の自然な排便を促せるよう支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	日々身体を動かすことや、水分をとることを心掛けている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	排泄の回数や、量など記録している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	オムツの使用や種類を考え、見守りや介助を行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	会議で排泄を困難にしている原因を話し合って改善に取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用に合わせて早めの声かけをして予防に努めている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	職員が利用者に合った紙パンツやパッドを進めて家族様に相談している。許可を得たものを使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	利用者に適したものを使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	△	便秘薬も使用しているが、運動や腹部マッサージなどして、自然排便を促すように努めている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	週に2～3回職員の都合で入れてしまっている。	◎		○	入浴できる時間帯が決まっているものの、週2～3回程度、利用者が入浴できるよう支援している。利用者の希望に応じて、毎日の入浴のほか、湯の温度、入浴順、好みのシャンプー類の使用など、可能な範囲で柔軟に対応をしている。以前には、毎日の入浴を希望する利用者があり、柔軟に対応することができていた。また、回数の対応は少ないものの、湯船に長く浸かりたい利用者には、職員が付き添って見守りを行うなど、利用者の安全面への配慮も行われている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	△	職員によってはゆっくり入浴できるように提供することが出来ていない。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗髪や洗身などできることはして頂いている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けに工夫をしたり、時間をずらして入って頂くようにしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルチェックを行い、健康状態を確認している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間見守りをして記録し把握している。				事業所には眠剤を服用している利用者が数名いるが、医師に睡眠状況を報告し、専門的な指示や助言を仰ぎながら、ふらつきなどの影響が出にくいように、薬を減量するなどの対応に努めている。また、利用者の日中の活動に目を向けて、日中に散歩や体操を取り入れて活動量を増やしたり、日光浴を取り入れたりするなど、なるべく服薬に頼らずに、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。時には、夜間に寝付けない利用者もあり、無理強いをすることなく、眠たくなるまで職員がリビングに付き添い、ゆっくりと話をするなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中に出来るだけ活動していただき、夜間ぐっすり眠れるように心掛けている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	看護師とは連携している。眠役は基本的に頼らないようにしている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	体調に合わせて昼寝や休息をとってもらうように心掛けている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	本人が電話や手紙を書くなどの機会はほとんどない。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	電話や手紙は出来ていない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	出来ていない。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いた手紙などは本人に渡し、届いたことを家族様には伝えている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	電話をかけることはないが、家族から手紙は届くことがある。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	お金を持つことの大切さを理解しているがトラブルにならないように施設で預かっている。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	地域資源の活用として訪問販売などの利用を行い、外出が困難な利用者も支援している。。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族様が許可をいただいている方のみ財布を使用している。お金を所持して使えるように支援している。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族様と相談して使い方や所持方法を話し合っている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	お小遣い帳作成している。毎月、領収書とともに家族様に送っている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	サービスの多様化までは至っていない。	◎		○	感染対策の制限が緩和され、利用者や家族の希望に応じて、家族の協力を得ながら自宅に帰ったり、外出や外食に出かけたりするなど、可能な範囲で柔軟に対応をしている。また、急な場合のほか、遠方に住む家族などの場合には、職員が病院受診の同行支援をすることもある。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関は施錠せずいつでも開けられるように開放している。	◎	○	○	事業所の建物は趣のある日本家屋で、両ユニットを挟むように格子戸の玄関が設置されている。風情のある建物は、自然豊かな場所にとっても馴染んでおり、玄関先の垣根の合間からは、リビングでくつろぐ利用者の様子が見えるなど、親しみやすく気軽に入りやすい雰囲気も感じられる。

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。）	○	unnecessaryものはなるべく置かないようにしている。廊下に入居者の作品など飾っている。	◎	○	○	リビングにある大きな掃き出し窓から日差しが入り明るい空間となっている。利用者は道行く人や木々の緑を眺めながら、自然を肌で感じながらゆったりとした生活を送ることができる。日々、職員が共用空間の掃除を行い、整理整頓が行き届き、利用者の動線が確保されるなど、車いすや歩行器、手押し車を使用している利用者也、安心安全に移動することができる。また、廊下の壁面には職員を紹介した写真が貼られているほか、季節の飾り付けや保育所の園だよりが掲示され、家庭的な雰囲気が感じられる。さらに、リビングにはソファが置かれ、畳コーナーも設けられるなど、利用者は思い思いの場所でくつろぎながら過ごすことができる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	食べこぼしや汚れがある際はこまめに掃除をしている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食事のにおいや家事の音など生活感のある暮らしを心掛けている。散歩の途中で花を持ち帰り飾ったりもしている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	フロアのソファや畳など好きなところで過ごしてもらっている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	以前から使っていたものを持ってきていただき使用している。（枕や仏壇）等	◎		○	利用者は、使い慣れた物や馴染みの物を居室に持ち込むことができる。入居前から使用していた棕櫚ほうきやちりとり、テレビ、仏壇を居室に持ち込んだり、洗面台に好みの化粧水や電気シェーバーを置いたり、金婚式の時の写真が入った置き時計を飾るなど、一人ひとりの居心地の良い空間づくりが行われている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置し、安全に移動できるようにしている。テラスではベンチをおいて休めるようにしている。				○	3か所のトイレが設置され、うち2か所は車いすでもゆったりと入れるスペースが確保されている。また、トイレ内には、前傾保持バーや立ち上がり補助用の手すりが設置され、利用者が安心安全に排泄できるような環境整備が行われている。また、トイレには「便所」と表示し、利用者が場所を分かりやすいように工夫をしている。さらに、車いすに手指や衣服を巻き込まないように、細工した段ボールを取り付けたり、利用者の移動の妨げにならないように、不要な物を置かず動線を確保したりするなど、利用者が安全に自立した生活が送れるような工夫も行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	△	新聞や雑誌など自由においているが、刃物など危険なものは出していない。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）	○	鍵をしないように努力し、スタッフが速めに察知し見守りを行っている。	◎	◎	◎	全ての職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中に玄関の施錠をしておらず、夜間のみ防犯のために施錠をしている。また、各ユニットの出入り口の付近は、職員が事務処理等を行うオープンスペースにも活用され、センサーチャイムも取り付けられるなど、職員は利用者や来訪者の出入りなどを気づきやすくなっている。訪問調査日には、センサーチャイムの音に合わせて、利用者から「誰か来たでー」と職員に知らせている様子が見られた。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族には入居時に説明をしている。家族より施錠してほしいとの希望はでていない。					
(4)健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	△	全てにおいて把握できていない。アセスメントなどには詳細記入している。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝、バイタルチェックを行い、異常があれば再検したり記録をしっかりとっている。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	医療連携看護師にいつでも連絡できるようにしている					
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ほとんどの入居者が事業所の協力医療機関を入居時にかかりつけ医に変更している。	○				
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族の同意のもと、協力医療機関の受信、往診を行っている。					
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	ほとんどの受診は施設で対応している。異常があれば電話で報告している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には情報提供書を作成し、入院先に渡すようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	訪問や電話にて相談委員や看護師、ご家族様に経過や様子を聞くようにしている。日頃からは出来ていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週に1回医療連携の訪問時に日常の様子で少しでも変化があれば報告している。訪問看護を利用している際もこまめに報告している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	医療連携や訪問看護師は24時間いつでも連絡できるようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	週一で医療連携看護師に状態の確認を行っている。変化が見られた時は報告し、指示を仰いでいる。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提している。	△	薬の副作用等について全部は理解できていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬は1回分ごとに分けて用意している。飲み忘れがないように二重チェックをしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	常に体調変化に気を付け、異常が見られた時は医療連携に相談している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に応じて本人、家族と話し合い、意向を把握し、意向に沿って支援している。				事業所では、「重度化及び看取りに関する指針」を整備し、入居時や状態の悪化時に、利用者や家族に事業所に対応できることを説明している。利用者の状態が悪化した場合や看取り期には、再度家族の意向を確認するとともに、主治医から専門的な助言を受けてからケアカンファレンスを実施し、今後の支援方法などの方針を決定している。事業所では、定期的に医師が往診に来訪するとともに、医療機関との医療連携体制も図られ、利用者や家族が希望する場合には、看取り支援にも対応をしている。訪問調査日には、食事が摂れなくなり、吸引が必要な利用者に対して、家族との話し合いや主治医からの助言を受けた上で、現状に即した新たな介護計画を作成し、訪問看護に点滴や吸引をしてもらいながら、支援を行う記録を確認することができた。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	状態の変化時には臨時でカンファレンスを開催し、方針を決めている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方針の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	カンファレンスを行い、本人の思いや家族の意向に沿いながら、自分達のできることを話し合って支援している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	△	家族には方針や対応については説明を行っている。重度化した場合には出来る範囲のことを説明している。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	職員だけでなく家族の協力を得たり、医療職も含めたチームケアで最後までその人らしく生きられるように支援している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の不安や不満があった時にはしっかり思いを聞くようにしている。出来るだけ家族の望みに添えるように支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的な研修や勉強会を開いている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染対策、コロナ対策のマニュアルを作成しているが訓練は行えていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	インターネットなどで情報を得ている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤時、退勤時、手洗い等徹底している。玄関にはマスクや消毒液をおいている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	コロナウイルスの為、面会など来る機会が減り、本人さんに関わる時間も減った為、あまりできていない。				以前は家族会を開催するほか、家族に参加協力を呼びかけて行事を開催することができていたが、現在は感染対策等もあり、開催することができていない。現在は感染対策が緩和され、自由な面会も可能となり、管理者は、「感染状況を見計らいながら、家族が交流できる行事の再開を検討したい」と考えている。また、毎月広報誌を家族に送付し、利用者の生活の様子を伝えるとともに、3か月に1回介護計画の更新時に、全ての家族に電話連絡を入れて、意向の確認のほか、意見交換も行われている。さらに、運営推進会議の中で、職員紹介や行事報告を行うなど、管理者等から事業所の取り組みを伝えるとともに、家族の来訪時には職員から声をかけて、意見を出してもらいやすいような雰囲気づくりに努めている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナウイルスの為、家族同士の交流は出来ていない。	○		△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	面会時や電話に、手紙などに悩み事などないか記載している。何かあれば相談されている。家族が知りたい具体的な内容までは把握できていない。	◎		○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	利用者のことは電話で伝えているが関係を築くまでは出来ていない。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	広報の新聞で、行事報告や異動など報告している。	◎		○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	△	家族様に起こりうるリスクについては説明しているが全部は出来ていない。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	広報や手紙などで要望や気になる点がないか確認を行っているが、要望はほとんどない。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居契約時にしっかりと説明をし、同意をいただいている。契約内容に変更があるときには、説明会を設け、出席できない方には電話連絡にて説明を行い、同意をいただいている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居契約時に退去される場合についての説明も行っている。本人、家族は希望したところにうつれている。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開所時から地元の理解を得ている。昔は行事等、参加していただいていたが、コロナウイルスが流行っている為出来ていない。		○		法人・事業所として、自治会に加入し、地域で行われる清掃活動や祭り、運動会等に参加して、地域との交流を図っている。また、事業所周辺を散歩時には、日常的に近隣住民と挨拶や会話を交わすとともに、近隣住民から野菜や果物の差し入れをもらうこともある。事業所近くには、農業体験移住宿舎があり、管理者は新しく入居した住民に挨拶に伺うことを予定している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	コロナウイルスの為、出来ていない。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	以前と変わらない為、増えていない。				
		d	地域の人気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	軽く挨拶などはするが、立ち寄ったり遊びには来ていない。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	一部の方だが、畑で採れた野菜など頂いたり、玄関先でお会いしたときはお話をしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナウイルスの為、出来ていない。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	吉鹿、南予畜産等の業者を利用しお野菜やお肉など持ってきていただいている。移動理髪店など活用し3か月に一回髪を切っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取 組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	コロナウイルスの為、開催できていない。	○	/	○	感染対策が続き、運営推進会議は書面開催が続いていたが、令和6年8月から対面形式の会議を開催できるようになっている。会議は、利用者や家族のほか、自治会長や民生委員、町担当者、駐在所所長等の参加を得て開催をしている。会議では前年度の施設目標や反省点、今年度の施設目標、行事予定、災害対策等を報告し、参加メンバーと活発な意見交換ができています。令和6年8月の会議の中で、「利用者や職員の顔や名前がわからない」と意見をもらったため、紹介の機会を設けることを予定している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	コロナウイルスの為、開催は出来ていないが、レジメにして報告している。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナウイルスの為、開催できていない。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は職員と話し合いで作成したものを見える場所に提示している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念を作成したときに運営推進会議にて公表しているが、全部は出来ていない。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	代表者に代わって管理者が職員一人一人に合った研修を選んで参加できるようにしている。	/	/	/	医師である代表者は、往診等で頻回に事業所に来訪があり、利用者や職員に声かけをしている。2か月に1回開催する法人の管理者会議にも代表者は参加し、事業所の運営上の事柄や利用者の状況等の情報を把握するとともに、管理者との意見交換が行っている。また、日々管理者は職員と一緒に業務に従事し、こまめに職員とコミュニケーションを図りながら意見や提案を聞き、より良いサービス提供に繋げられるよう努めている。職員から出された意見は、必要に応じて、管理者から法人の副部長に伝えて、代表者に伝えることもできるようになっている。さらに、人権等をテーマにした内部研修を実施したり、希望休や有給休暇の取得を促したり、管理者が気軽に相談に応じるなど、職員が働きやすく、高い意欲をもって働けるような職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	×	計画的なOJTは出来ていない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	×	勤務状況を把握できていない。職員の異動も多くモチベーションが下がっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナの為出来ていなかったが、最近愛媛県地域密着型サービス協会や内子町のグループホーム連絡会を再開して情報交換を行っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	年5回年次有給休暇ととれる仕組みになっている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	高齢者虐待防止の研修に参加している。年に1回勉強会を開き学ぶ機会を儲けている。	/	/	○	業務カンファレンスや身体拘束委員会の中で、虐待防止をテーマにした勉強会を実施するとともに、発生防止に向けた話し合いやケアの振り返りを行い、職員の理解促進に繋げている。また、職員は不適切な行為が見られた場合の対応方法や手順を理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ケアカンファレンスなどで、日々の介護について振り返っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	職員の疲労やストレスが利用者に影響する前に管理者に報告はしているが、その後が分からない。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取 組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	年1回勉強会を開いているが、全部は把握できていない。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的に委員会を設置し話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	家族からの要望はない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	×	年1回勉強会を開くがすべての職員が理解できているわけではない。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	成年後見人代理人で司法書士方と連携している。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルは作成しているが、全員には周知できていない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	救命救急の訓練を行っていたが現在はコロナウィルスの為、出来ていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを利用し、毎月の会議の時に話し合い再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の状態を見て考えられるリスクについて検討し、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対策マニュアルは作成しているが職員への周知は出来ていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	現在、苦情の連絡は来ていない。苦情があった際は職員と対応策を話し合いその結果を伝えている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	現在、苦情の連絡は来ていない。苦情があった際は職員と対応策を話し合いその結果を伝えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	玄関に意見箱を設置し機会を作っているがが利用されていない。	○		○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望等を聞くとともに、出された意見は申し送りなどを活用して、職員間で情報を共有している。職員は利用者が感じたことを遠慮なく伝えられるように、日頃からコミュニケーションを図り、良好な関係を築くよう努めている。面会時や電話連絡の際に、家族から意見や要望を聞くようにしている。また令和6年7月から新たに赴任した管理者は、日々職員と一緒に業務に従事する中で、職員の意見や提案に耳を傾けながら信頼関係を築くように努め、利用者本位の支援が実践できるように取り組んでいる。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	玄関に意見箱を設置し機会を作っているがが利用されていない。契約時に苦情の受付窓口については説明を行っている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	現場に足を運ばれることがあるが、意見や要望を言うことは少ない。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	業務カンファレンスや年2回の査定時に話を聞く機会を作っている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員が個別に自己評価を行い、職員全員で意見を出し、時間をかけて評価に取り組んでいる。				現在の管理者は、赴任してから初めての外部評価の受審であるものの、全ての職員が参画して、出された意見を取りまとめて自己評価を作成している。外部評価のサービスの結果や目標達成計画は、運営推進会議の中で報告をしている。今後は目標達成の取り組み状況について、会議の参加メンバーなどにモニターを依頼して意見をもらうなど、幅広い意見を収集するための方法を職員間で検討していくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価の結果を通して現状や課題を明らかにし、目標を達成計画を作成、取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	インターネットで公開している。また、運営推進会議のメンバーには会議の際に報告をしている。	○	○	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	評価結果と目標達成計画、目標の達成状況などを運営推進会議で報告している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	毎年、火災、地震、土砂などの訓練を行っている。マニュアルの見直しも行い、話し合いを行っている。				運営推進会議の中で、「南海トラフ地震が発生した時の備え」をテーマにして、会議の参加メンバーと活発な意見交換を行うなど、地域との協力支援体制の構築に向けて取り組んでいる。感染対策が続き、消防署の協力を得た避難訓練の開催は休止しているものの、火災や地震、土砂などの様々な災害を想定した避難訓練を実施している。また、利用者の居室前には、災害発生に備え、防災や蛍光仕様の札が掛けられ、災害発生時には利用者の避難完了を確認した場合には、取り外す仕組みづくりをしている。今後は、運営推進会議の中で参加メンバーに建物内を見学し、利用者の居室の場所や想定している避難経路を確認してもらうなど、より実践に即した合同訓練の実施や協力支援体制の構築に繋げていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画している。	○	日勤帯、夜間帯に分けマニュアルを作成し訓練を行っている。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や避難経路は訓練時にチェックしている。非常食や持ち出しリストなども作って確認できている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	コロナウイルスの為、合同訓練は行えていない。	○	◎	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	コロナウイルスの為、出来ていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	コロナウイルスの為、出来ていない。広報誌のみである。				地域の自治会館に、事業所のパンフレットを置かせてもらったり、2か月に1回、回覧板に入る地域新聞の中に、事業所の相談支援を掲載したりするなど、地域に情報を発信している。管理者と職員は、地域の清掃活動等に参加協力をしたり、中学生の職場体験の受け入れに協力したりするなど、地域との交流を図りながら、貢献をしている。また、管理者は内子町グループホーム連絡協議会に参画し、会議の参加者と一緒に意見交換や情報共有を行うなど、平時から関係機関と密な連携が図れるように努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	広報誌にて、相談の呼びかけを行っている。		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	事業所を開放しているが、コロナウイルスの為、出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	受け入れ態勢は出来ているが、申し込みが無い。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	みちづくり等、一部の地域行事に参加できている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 10 月 23 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 9名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3893600019
事業所名	グループホーム慶雲
(ユニット名)	西棟
記入者(管理者)	
氏 名	中川 由美
自己評価作成日	令和 6 年 9 月 14 日

(別表第1の2)

【事業所理念】 ・笑顔を大切に、自分らしい暮らしを提供する。 ・家族や地域との関わりを大切にする。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・地域の高齢者や認知症に人、その家族への相談支援が地域への新聞内での呼びかけにとどまっている。紙面以外での相談支援で取り組みが出来るようにしている。運営推進会議の構成委員に大瀬自治会長さんや区長さんを招き、入居希望者の有無確認や相談事がある際には連絡頂けるように話をしたり、行事後の慰労会に参加して地域の方と交流を行うようにしている。 ・外部評価の結果と目標達成計画は運営推進会議無いで報告できているが、目標に向けた取り組みの状況などが報告出来ていない。目標達成への取り組みなども定期的に報告できるようにしている。最近になり、書面開催から運営推進会議を開催を始めたばかりで成果が出ていない状態である。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は山間部の自然豊かな場所に位置し、利用者は季節の移り変わりを感じながらゆったりと生活を送ることができる。事業所の建物は、趣のある日本家屋で、両ユニットを挟むように格子戸の玄関が設置されているほか、大きなテラスから、街並みを眺めることができる。また、利用者が好きなことや得意なことをしながら、楽しみのある生活を送ってもらえるような支援に努め、職員の聞き取りから「自分らしく自由に過ごしてほしい、ストレスなく穏やかに過ごしてほしい」などの利用者への思いを聞くことができた。訪問調査日には、以前ピアノ教室の先生をしていた利用者が、笑顔でリズムを取りながら演奏するとともに、職員に弾き方を教えている様子を見ることができた。さらに、医療機関との十分な連携体制が整備され、平時から医師や看護師から専門的な指示や助言を受けることもでき、希望に応じて、看取り支援にも対応をしている。令和6年7月から新たに赴任した管理者は、日々職員と一緒に業務に従事する中で、職員の意見や提案に耳を傾けながら信頼関係を築くように努め、利用者本位の支援が実践できるように取り組んでいる。加えて、定期的に内部研修を実施したり、希望休の取得を促したりするなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいることもあり、法人内で10年以上勤続する職員も多い。
---	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	コミュニケーションが出来る方はどう過ごしたいかを日々の生活の中で聞き取るようにし、得られた情報はカンファレンスなどで伝え職員間で共有するようにしている。	◎		○	日々の生活の中で、職員は利用者から「楽しく過ごしたい、手伝いをしながら生活したい」などの思いを聞き、介護記録に記載して職員間で共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	意思疎通が困難な方にはジェスチャーや筆談を行うなどを交え、表情や仕草などから思いを把握するように努めている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	電話や面会の際に本人の思いを聴き取りし、話し合いを行っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日常の会話の中で本人の思いを引き出そうとするが、伝えられない方も居るため、十分な記録は出来ていない。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	決めつけでの介護にならないように意思疎通が出来ない方でも思いを汲み取れるように努力している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	ケアプラン変更時や日々の関わりの中で引き出すように努力をしている。			○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、生活歴や馴染みの暮らし方等を聞き、事前調査表に記載をしている。また、入居前に利用していた施設や病院の関係者からサマリーや情報シートなどの情報も提供してもらうようにしている。また、把握した情報は、フェイスシートや事業所独自のアセスメントシートに、医療・精神・食事・排泄・基本動作・入浴・整容などの項目ごとに分けて、詳細な利用者の状況が記載されている。さらに、新たに知り得た情報や既存の内容に変更が生じた場合には、赤字で追記して職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントなどを元に現在の残存能力などの把握に努めるようにしている。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	個別の記録に日々の様子などを記録し、日中や夜間の過ごし方や様子を周知できるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ケアカンファレンス内で話し合い、本人の求めているものを本人視点で検討できるように努力している。			◎	把握した情報をカンファレンスなどの中で話し合い、課題解決や利用者本位のより良いサービスを検討している。また、利用者の好きなことや得意なことをしながら、楽しみのある生活を送ってもらえるような支援に努めている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアカンファレンスで話しあった課題などをプランに反映できるように努めている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	意思疎通困難な方も少しでも思いが反映できるように努力している。				事前に、利用者や家族から聞き取った情報やアセスメント情報のほか、生活の中で、利用者が発した言葉やくみ取った思い、家族の意向を踏まえて、担当者会議等の中で話し合い、計画作成担当者が利用者本位の介護計画を作成している。訪問調査日には、「他者と協力して職員の手伝いができる、毎日足の運動ができる」など、利用者の意見を反映するとともに、できそうなことに着目した個別性のある介護計画を確認することができた。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	電話や面会時に変化がみられた身体状態について家族様にお伝えしてから意見や要望を伺っている。本人は日頃の言葉の中から汲み取る様に努力している。ケアカン時に職員目線での課題について聴き取り反映している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	体調の良い日はフロアに出ていただき、他の利用者、職員と関わりが持てるようにし、慣れ親しんだ暮らしに近づけるように努めている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	一部の利用者には家族様の協力が盛り込まれている。今後地域の方が参加できる行事企画を作成するよう計画している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	月1回のケアカンファレンスでの見直し、介護記録内に短期目標を記入して見れるようにしている	/	/	○	介護記録の様式の上段に、介護計画の短期目標とサービス内容が記載され、職員は記録を残す際に計画の内容を確認できるようになっている。また、目標ごとに番号を付けて、サービスの実施内容を記載することで、介護計画に沿った支援が実践できているかどうかを確認しやすいようにしている。また、法人の介護記録の様式はあるものの、効率化や共有のしやすさなどを職員間で検討し、必要に応じて、随時見直しをする工夫をしている。さらに、利用者の発した言葉をそのまま記録に残すなど、職員は利用者の詳細な状況を記載した記録を心がけている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画に沿った実践・記録は出来ている。申し送りや個別での把握は出来ている。ケアプラン作成時に職員にも協力して貰い、共有できるようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	状態や目標の期間に応じて、ケアカンファレンスで介護計画の見直しを行っている。	/	/	○	6か月に1回を基本に、介護計画の見直しをしている。毎月全ての利用者のモニタリングをして、評価や利用者の現状確認を行うとともに、3か月ごとに利用者の状況等を家族に説明し、意向を確認している。また、利用者の状態が悪化し、医療的な支援が必要になった場合には、随時カンファレンスを実施して計画の見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。本人の意向をくみ取った「早く元気になりたい」という新たに作成した目標を確認することもできた。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ケアカンファレンス時にモニタリングを行い、確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	身体状態の変化があった際には、随時のケアカンファレンスを行いケアプランの見直しを行うようにしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回のケアカンファレンスと状態変化が見られた時は随時のケアカンファレンスを行っている。	/	/	○	月1回業務カンファレンスやケアカンファレンスを実施し、職員間で情報共有をするほか、課題やより良いサービスの検討をしている。緊急案件のある場合には、職員間で早急に話し合いをしている。会議には、なるべく多くの職員が参加できるように、時間を固定して18時30分から開催するとともに、参加できなかった職員には議事録を確認してもらい、情報を共有している。また、会議は職員から気軽に意見や提案を出しやすいような雰囲気の中で行われている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	お互いの気付きや考えなどを素直に話し合い、お互いに活発に意見交換ができています。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	ケアカンファレンスは全ての職員が参加出来る時間、日時に行っており、職員が周知できるように記録に残している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	職員同士で申し送りを必ず行い情報の共有を図っている。	○	/	○	申し送りノートや介護業務日誌を活用して、日々の申し送りを実施し、職員間で情報を共有している。また、利用者の支援内容は、カンファレンスの中で話し合い、職員間で情報共有をしている。職員間の業務連絡は、SNSのグループLINEを活用して、迅速に共有できるようにしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	傾聴し出来るだけ叶えるように努力している。	/	/	/	着替えの衣服やレクリエーションの内容、余暇時間の過ごし方、趣味活動など、生活の様々な場面で、職員は声をかけて、利用者自身が好きなものやしたいことの選択や自己決定ができるよう支援している。脳トレプリントには、書写や塗り絵、計算、間違い探しなどの多くが用意されているほか、訪問調査日には、職員から「脳トレに使う鉛筆を削ってもらえますか」と利用者に声をかけて、手伝ってもらう様子を見ることができた。また、以前ピアノ教室の先生をしていた利用者から職員が弾き方を教えてもらい、教え終わった後には職員からお礼の言葉を伝えて利用者の微笑ましい笑顔が見られるなど、思いに沿って笑顔で生活を送ってもらえるような支援にも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	衣服など自己決定できるような機会を作るようにしているが、一部の方だけで全員には出来ていない。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	時間やタイミングなど一人一人に合わせた介護が出来るように努めている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人の得意な事や興味があるようなことを行えるように声かけし、発言や表情などを引き出せるように、プランに盛り込むことで実践できるようにしている。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通の困難な方は表情や身振り手振り等を通じて本人の思いを汲み取れるように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	○	利用者の尊厳を大事にして、言葉かけや態度に気を付けて対応するように努めている。	◎	○	○	内部研修や外部研修の中で人権や尊厳等を学び、職員は利用者一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切にしたい支援に努めている。ミーティングの中で、管理者から利用者を尊重した言動や接し方などの継続した指導を行い、職員の理解促進に努めている。訪問調査日には、職員が利用者の気持ちをくみ取りながら、利用者のペースに合わせて会話をすることが見られた。また、利用者の居室の入室時には、事前に職員からノックや声かけをするとともに、居室の不在時にも、事前に利用者に声をかけ、了承を得てから入室をすることができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄や入浴時にはしっかりドアを閉めて介助にあたるように努めている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る際はノックをして入り、居室に居ない場合も本人に入ることを声かけして入室するようにしている。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修などで理解し個人情報漏洩防止に努めている。書面を作成し、署名も行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	食事後の食器拭きや洗濯物たたみ等出来ることは手伝って頂いており、都度感謝の言葉を伝えて いる。				職員は利用者の性格や関係性を把握し、仲の良い利用者同士で過ごせるように配席を決めるなどの配慮をしている。また、足元の不安定な利用者が立ち上がる際に、隣にいる他の利用者がいすを支えたり、口元が汚れている利用者にティッシュを渡したり、視覚障がいのある利用者に声をかけるなど、日常生活の中で、利用者同士の助け合いや支え合う場面も見られる。中には、介護計画の目標の中に「他者と協力し合う」を取り入れて、職員の見守りのもと、積極的に他の利用者に声をかけたり、下膳などの手伝ったりする利用者もいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	助け合って生活する事の大切さを理解しようと努力している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	口論になっている時は、間に入り仲裁をしている。利用者同士の折り合いが悪く、トラブルが続く時は席の入れ替えをして距離を置くように対応している。仲の良い方同士が、隣り合って会話が出来るように配慮もしている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士がトラブルにならないよう席の配置に工夫している。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	家族関係の把握は出来ているが、知人などの把握は不十分なところがある				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族様とは面会時に交流を図れるよう支援している。面会に来て頂いた知人の方や友人の方には、来て頂きたい事を伝え、関係が途切れないよう働きかけるようにしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日はテラスや外へ散歩に出かけるなどしている。行先は決まって外出しているが、地域のお祭りや買い物などへ出掛ける事もある。	○	◎	◎	感染対策で外出支援の制限が設けられていたものの、徐々に制限を緩和され、天気や気候の良い日には、日常的に事業所周辺を散歩したり、屋外に出て外気浴をしたりすることもできるようになり、利用者に喜ばれている。また、地域の秋祭りに利用者と一緒に外かけて、獅子舞などの伝統芸能を見たり、地区の運動会で見学や宝拾いを楽しんだり、今後地域の柿祭りに参加予定とするなど、積極的に地域行事に参加することを利用者は楽しみにしている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	協力要請が難しく十分には出来ていない。家族様には受診介助や外出などの協力をして頂いている方もいる。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症について研修などに参加して学び、その方に合った声掛けや対応をするように努力している。				日常生活の中で、職員は利用者のできることやできそうなことを把握している。自分で食事を摂ったり、排泄時にズボンの上げ下ろしをしたり、入浴時の洗身をするなど、可能な範囲でできることは利用者自身でももらい、職員は見守りやできない部分のフォローをしている。また、生活の中で、リハビリ体操や口腔体操を実施したり、洗濯物たたみや食器拭きなどの生活リハビリを取り入れたりするなど、利用者の心身機能の維持や向上に繋げている。訪問調査日には、昼食に出されたヨーグルトの蓋を一生懸命に自分で開けている利用者を、近くで見守る職員の様子を見ることができた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	研修などで勉強し、体操やレクリエーションなど毎日の生活動作を通して身体機能の維持に努めるようにしている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できること、できそうなことを把握し見守りや一緒に行い、本人の意欲低下を招かないよう努力している。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	生活歴や習慣等をもとに一人一人が楽しめたり役割を持って参加できるように努めている。				職員は利用者のできることや得意なことを把握し、状況に応じて洗濯物たたみや食器洗いなどの役割を担ってもらっている。「洗濯物はよ持ってきて」と職員に催促する言葉が聞かれるなど、積極的に役割に取り組む利用者もいる。また、移動販売の来訪時には、利用者自身がカゴを持って、好きな物を選びながら買い物することができている。さらに、脳トレで2桁の足し算をしたり、趣味のピアノを毎日弾いたりするなど、利用者が好きなことや得意なことなどをしながら、楽しみのある生活を送れるような支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人一人の状態を把握し、それぞれが張り合いを持てるような役割分担が出来るように努めている。	○	○	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	くしを手渡しその人が好む身だしなみになるようにしたり、衣類も選べる方は職員が手伝い選んで頂いている。				男性利用者に電気シェーバーを渡し髭剃りをしてもらうとともに、職員は剃り残しなどのフォローをしている。寝ぐせや衣服の汚れが見られた場合は、職員がさり気なく声をかけて、自分で髪を手直しをしたり、必要に応じて、居室に移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。定期的に、訪問美容の来訪があり、全ての利用者は好みの髪型や毛染めのほか、時には眉毛などの整容を整えてもらっている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	髪をカットする時も本人の希望に任せている。入浴時等に声をかけて衣類などを選んでもらっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	答え易いように声かけを行うなどして、少しでも本人の気持ちを汲み取れるように努めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合った服装を着て頂けるように声かけを行うなどしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼし等は都度拭き取りを行い、汚れが目立つときは更衣等の声掛けをしている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	施設で利用している出張美容師の方にお任せしている。家族様にも何うが施設でお願いされる方がほとんどである。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	身だしなみを整えて本人らしく過ごせるように努めている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	研修や勉強会を通して学び、食事形態に工夫し口から食べる大切さを理解している。				業者に食材を発注して配達をもらい、利用者に食器洗いやお盆拭き、台拭きなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。法人内の事業所が持ち回りで、献立を作成している。時には、家族から梨やみかんなどの差し入れがあり、食卓に上ることもある。また、いも炊きやおでん、さつま芋ご飯などの旬の食材を使用して食事を提供することもあり、利用者に喜ばれている。茶碗や湯飲等の食器類は、入居時に馴染みのものを持参してもらったり、事業所で用意した使いやすい物を使用したりしている。利用者の嚥下状態に応じて、看護師や家族に相談し、刻みやトロミなどの食べやすい食事の形態にも対応をしている。食事の際に、職員は利用者と同じ食卓を囲み、楽しく会話をしながら同じ食事を摂ることができている。介助の必要な利用者がある場合には、サポートを優先し、別々に食事を摂ることもある。栄養士までの助言を受けることはできていないものの、献立委員会の中で、食事内容や食事形態等の話し合いをしている。利用者の食事量等で、気になる点がある場合には、医師や看護師に相談し、専門的な指示や助言を受けている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにに行っている。	○	買い物や献立作りは一緒に行えていない。業者に食材は発注し、献立は事業所全体で交代に作成している。後片付けの食器拭きなどは手伝って頂いている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来る方には後片付けのお手伝いはして頂き、自信・達成感へと繋がるように努めている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に本人や家族からアレルギーや嫌いな食べ物などの聞き取りを行って把握に努めている				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の物を取り入れて、季節感などを感じて頂けるような献立になるように努めている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	食事を食べやすいように一人一人の状態を見ながら。食事形態をかえ、美味しそうに見えるような盛り付けに工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入居時に新調した使い慣れたものを使用している方もいる。同じ器を使用せず、専用の食器を用意し使って頂いている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も同じ食卓を囲み、そばで様子を見ながらサポートするようにしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	目が不自由な方に分かり易く献立の話をしたり、匂いの分かる席に座って頂いて感じて頂けるようにしている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	しっかりとしたカロリー計算は出来ていないが、バランスよく食べれるような献立作りをしたり、一人一人に合わせた水分摂取を行い記録している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取の少ない方には、時間を空けての声掛けや水分の種類を代えて提供するなどして摂取できるように努めている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスは受けていないが、定期的に献立委員で集まり話し合いをしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材ごとにまな板の使い分けや、使用後に消毒などをして食中毒にならないように努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの必要性や重要性を研修や勉強会などで学び理解している。				入居時に把握したアセスメントシートを活用しながら、義歯の有無のほか、口腔内の健康状態を確認している。毎食後に、職員は声をかけ、一緒に利用者と洗面台に付き添って口腔ケアを実施している。月1回職員は全ての利用者の口腔内を確認し、状況を記録に残している。自分で口腔ケアができなくなった利用者には、介護計画に反映させながら身体状況に応じた口腔内の洗浄を行い、清潔保持に努めている。また、義歯の不具合や口腔内の異常が生じた場合には、早期に歯科医の受診や往診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	口腔ケア時等に口腔内の状態を把握するように努めてい る。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	直接的な歯科医等からの指導は受けていない。歯科医師が行う研修などの参加を行っている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日1回入れ歯洗浄剤を使用している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等）	○	毎食後口腔ケアの際に声かけを行い、必要に応じてセッティングするや自分で困難な方は義歯や口腔ケア介助し、洗浄を介助している。痛みや必要な時は往診の要請を行っている。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	尿意や便意が無い方にもトイレ誘導を行っている。日中はトイレでの排泄が出来るようにしている。				一人ひとりの利用者の排泄の回数や量などの記録を残すとともに、状況に応じたトイレ誘導や介助などの支援を行い、基本的に職員はトイレで利用者が排泄できるよう支援している。中には、安全面を考慮して、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。また、ケアカンファレンスの中で、利用者の排泄状況や失禁状態、尿量などを職員間で共有し、排泄支援の方法等の話し合いをしている。また、排泄状況に応じて、パッドや紙パンツなどの排泄用品を職員間で検討するとともに、家族に相談した上で使用や変更をしている。さらに、便秘が続き、中には下剤や軟便剤などを服用している利用者があるものの、日中の運動を取り入れたり、腹部マッサージを実施したりするなど、なるべく服薬に頼らずに、利用者の自然な排便を促せるよう支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会などで学んで、理解するように努めている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	個別に排泄チェックを行い把握するようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ケアカンファレンスなどで話し合い、本人の状態にあった排泄用品の使用をしている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	ケアカンファレンスなどで話し合い、対応や改善策を検討している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	定期的な誘導を行ったり、本人の排泄パターンを把握してトイレ介助などを行うように努めている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	時間帯によって使い分けをしている。本人が悩んでいる際は提案を行い用途に応じた用具を勧めるなど本人と話し合い・相談している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	一人一人に合った紙パンツやパットを時間にや状態に合ったものを使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	個人の状態に合わせた対応をするように努めているが、緩下剤を使用しないと排便困難な方もいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	希望に沿った入浴が出来るように努めているが、施設側の時間帯に合わせた入浴対応になっている。	◎		○	入浴できる時間帯が決まっているものの、週2～3回程度、利用者が入浴できるよう支援している。利用者の希望に応じて、毎日の入浴のほか、湯の温度、入浴順、好みのシャンプー類の使用など、可能な範囲で柔軟に対応をしている。以前には、毎日の入浴を希望する利用者があり、柔軟に対応することができていた。また、回数の対応は少ないものの、湯船に長く浸かりたい利用者には、職員が付き添って見守りを行うなど、利用者の安全面への配慮も行われている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個々のペースで入浴し、少しでもくつろげるように支援行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	安心して入浴できるような支援や本人の届かない範囲の介助を行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒否された方の話を聴き時間をずらして声をかけたり、日を改めるようにしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	その日の状態を把握し入浴介助にあたるようにしている				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の記録をもとに、個々の睡眠パターンの把握に努めている				事業所には眠剤を服用している利用者が数名いるが、医師に睡眠状況を報告し、専門的な指示や助言を仰ぎながら、ふらつきなどの影響が出にくいように、薬を減量するなどの対応に努めている。また、利用者の日中の活動に目を向けて、日中に散歩や体操を取り入れて活動量を増やしたり、日光浴を取り入れたりするなど、なるべく服薬に頼らずに、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。時には、夜間に寝付けな利用利用者もあり、無理強いをすることなく、眠たくなるまで職員がリビングに付き添い、ゆっくりと話をするなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中に運動やレクリエーションに参加して頂き生活リズムを整えられるよう工夫している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の過ごし方や生活リズムなどを把握して、個々に合った睡眠パターンが保てるように努めている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の様子に合わせて居室やフロアなどで休んで頂くような声かけを行っている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	手紙でのやり取りをされている方は居ないが、電話の希望がある方には希望時に家族に取り次ぎ、話して頂いている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	手紙を書くや代筆するように促すが希望される事がない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望される方は電話出来るように取り次いでいる。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は本人に渡して見て頂き、家族にも届いた事を伝えている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に電話をかけて良いかを確認し、可能な時間帯なども聞くようにして対応して頂くようにしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	所持することの大切さの理解はしているが、金銭管理によるトラブル回避などの為施設にて預らせて頂いている。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	業者さんに移動販売をして頂き、気兼ねなく買い物を行われている。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方向的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	入居時等に家族と相談し本人が所持したいなどの時は、所持することで起こりうるトラブルなどを相談して、家族に了解を得るようにしている。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と相談して所持方法を決めているが、施設での管理を希望される方が多い。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	毎月お小遣い帳のコピーを家族に送付するようしており、本人等の希望で預り金から購入する場合は家族に相談して購入をするようにしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族などから希望がある際は、安全面などを考慮しながら可能な限り希望に添えるように支援に取り組んでいる。	◎		○	感染対策の制限が緩和され、利用者や家族の希望に応じて、家族の協力を得ながら自宅に帰ったり、外出や外食に出かけたりするなど、可能な範囲で柔軟に対応をしている。また、急な場合のほか、遠方に住む家族などの場合には、職員が病院受診の同行支援をすることもある。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関は日中はいつでも出入りできるように施錠せず網戸などにしており気軽に来て頂けるようにしている。	◎	○	○	事業所の建物は趣のある日本家屋で、両ユニットを挟むように格子戸の玄関が設置されている。風情のある建物は、自然豊かな場所にとっても馴染んでおり、玄関先の垣根の合間からは、リビングでくつろぐ利用者の様子が見えるなど、親しみやすく気軽に入りやすい雰囲気も感じられる。

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。）	○	利用者の作品や写真などを壁に掲示したり、季節に応じた飾りつけをするなどして、心地よい空間づくりに努めている。	◎	○	○	リビングにある大きな掃き出し窓から日差しが入り明るい空間となっている。利用者は道行く人や木々の緑を眺めながら、自然を肌で感じながらゆったりとした生活を送ることができる。日々、職員が共用空間の掃除を行い、整理整頓が行き届き、利用者の動線が確保されるなど、車いすや歩行器、手押し車を使用している利用者も、安心安全に移動することができる。また、廊下の壁面には職員を紹介した写真が貼られているほか、季節の飾り付けや保育所の園だよりが掲示され、家庭的な雰囲気が感じられる。さらに、リビングにはソファが置かれ、畳コーナーも設けられるなど、利用者は思い思いの場所でくつろぎながら過ごすことができる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	不快に思わないように換気や掃除を行っている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	職員が季節の花を持って来たり、散歩の際に草花を採取されて飾る方もおられて、視覚や嗅覚などでも感じれるように努めている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファなどをフロア内に設置し好きな場所で過ごせるようにしている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に家族と相談し本人が馴染みのある物などがあれば持って頂いて置いて頂いても良いことをお伝えしている。	◎		○	利用者は、使い慣れた物や馴染みの物を居室に持ち込むことができる。入居前から使用していた棕櫚ほうきやちりとり、テレビ、仏壇を居室に持ち込んだり、洗面台に好みの化粧水や電気シェーバーを置いたり、金婚式の時の写真が入った置き時計を飾るなど、一人ひとりの居心地の良い空間づくりが行われている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手すりを設けていたり、トイレなどが分かるように目印を設置するなどして、自立した生活が少しでも送れる様に努めている。			○	3か所のトイレが設置され、うち2か所は車いすでもゆったりと入れるスペースが確保されている。また、トイレ内には、前傾保持バーや立ち上がり補助用の手すりが設置され、利用者が安心安全に排泄できるような環境整備が行われている。また、トイレには「便所」と表示し、利用者が場所を分かりやすいように工夫をしている。さらに、車いすに手指や衣服を巻き込まないように、細工した段ボールを取り付けたり、利用者の移動の妨げにならないように、不要な物を置かずに動線を確保したりするなど、利用者が安全に自立した生活が送れるような工夫も行われている。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	趣味の物や眼鏡や手伝い用品はすぐ手に取れるような場所に置き、新聞や本も気軽に読めるように置いてある。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）	○	日中は玄関やフロアに鍵をかけないようにしており、出入り自由にしてあるので各棟での利用者の行き来もある	◎	◎	◎	全ての職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中に玄関の施錠をしておらず、夜間のみ防犯のために施錠をしている。また、各ユニットの出入り口の付近は、職員が事務処理等を行うオープンスペースにも活用され、センサーチャイムも取り付けられるなど、職員は利用者や来訪者の出入りなどを気づきやすくなっている。訪問調査日には、センサーチャイムの音に合わせて、利用者から「誰か来たでー」と職員に知らせている様子が見られた。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に日中はカギをかけないことを説明し、希望される家族様にも説明をさせて貰っている。					
(4)健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	既往歴をシートにまとめて見たら判る様にしている。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルサイン以外にも食事量や水分量などを個別に記録して、業務日誌にも変わった事や気付いたことがあれば記録を必ず行っている。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事があれば看護師や主治医に電話で伝える事や、往診時に報告することで、相談にのってもらっている。					
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時にかかりつけ医の有無を確認し家族や本人の希望に添えるように支援している。	○				
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	協力医院にかかりつけ医になってもらい適切な医療が受けられるように支援している。					
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診後に何か異常などがあれば家族に連絡し、特に異常が見つからなければ、定期的な連絡時に一緒にお伝えする。					

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には情報提供書を作成して、入院先に情報交換している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院された時は、電話などで担当の看護師に経過や症状を聴くようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週に1回医療連携看護師の訪問時に日常で少しでも変化があれば報告している。訪問看護を利用している際も報告するようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間いつでも医療連携看護師と連絡が出来るようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日頃の健康管理や医療面での相談や助言をしてもらっている。気になることがあれば随時相談し、指示を仰ぐようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提している。	○	薬の説明などをファイリングし各職員がわかるようにしているが、十分な理解は出来てない。本人の状態に変化などがあれば主治医に相談している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	袋の色分け、名前の記入、食前食後を袋で分けるようにし、服薬時は複数で確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬を飲まれる前に主治医に副作用などの確認をしている。また、服薬後は異常がないかを状態観察を行い、異常時は直ぐに対応できるようにしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に家族に説明を行い、その後状態変化に応じて家族と話し合いをして意向や希望を伺っている。				事業所では、「重度化及び看取りに関する指針」を整備し、入居時や状態の悪化時に、利用者や家族に事業所に対応できることを説明している。利用者の状態が悪化した場合や看取り期には、再度家族の意向を確認するとともに、主治医から専門的な助言を受けてからケアカンファレンスを実施し、今後の支援方法などの方針を決定している。事業所では、定期的に医師が往診に来訪するとともに、医療機関との医療連携体制も図られ、利用者や家族が希望する場合には、看取り支援にも対応をしている。訪問調査日には、食事が摂れなくなり、吸引が必要な利用者に対して、家族との話し合いや主治医からの助言を受けた上で、現状に即した新たな介護計画を作成し、訪問看護に点滴や吸引をしてもらいながら、支援を行う記録を確認することができた。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族の意向や希望を、主治医や職員にも伝えて共有するようにしている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	状況変化に応じてケアカンファレンスを行い、ケアの方向や内容を家族の意向を踏まえながら相談や提案をしている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族との話し合いの中で、できること、できないことを説明し理解をいただくようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	職員だけでなく家族の協力をお願いしたり、医療職も含めたチームケアで最後までその人らしく生きられるように考えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	遠方でなかなか面会などに来れない家族の方にも話を聴き、望みに沿った支援が出来るように努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に感染症についての勉強会を実施して、繰り返し学習をしている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症マニュアルBCP作成と処置道具をまとめた物を作成しており、対応できるようにしている。施設で感染症が蔓延しており、経験している事もあり、手順は理解できている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	テレビ・ネットや役場からのメールなどで情報を入手して対応出来ている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤時、退勤時、手洗い・消毒などしっかりするようにしている。玄関にはマスクや消毒を設置している。来訪時に体温測定を行って貰っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	精神面で浮き沈みがある方の家族様には電話報告を行い、現状報告し電話で会話して頂き、本人の思いに寄り添って頂くように支援している。				以前は家族会を開催するほか、家族に参加協力を呼びかけて行事を開催することができていたが、現在は感染対策等もあり、開催することができていない。現在は感染対策が緩和され、自由な面会も可能となり、管理者は、「感染状況を見計らいながら、家族が交流できる行事の再開を検討したい」と考えている。また、毎月広報誌を家族に送付し、利用者の生活の様子を伝えるとともに、3か月に1回介護計画の更新時に、全ての家族に電話連絡を入れて、意向の確認のほか、意見交換も行われている。さらに、運営推進会議の中で、職員紹介や行事報告を行うなど、管理者等から事業所の取り組みを伝えるとともに、家族の来訪時には職員から声をかけて、意見を出してもらいやすいような雰囲気づくりに努めている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	現在は行えていないが、今後家族会を開催し、家族同士が交流できる場を設ける予定である。	○		△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	面会時や電話で話した際に身体状態や日頃の様子をお伝えしている。職員からも相談したい事の有無の確認を行っている。毎月、新聞を発行し家族様へ送っている。	◎		○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症からみられる中核症状など個人差があるなど具体的に話し、理解しやすいように説明行っている。中には迷惑をかけていると恐縮される家族様も居るが安心して頂けるように真摯にお伝えするよう支援している。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	家族への新聞内で行事や職員の異動などの報告をしている。	◎		○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	起こりうるリスクやメリット・デメリットについて説明をしつつ、利用者と家族様の希望も伺うようにしている。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	新聞や手紙などで要望や、気になる点などを確認している。面会時にも伺うようにしている。家族と利用者が会話しやすいようにテラスのベンチへ誘導して他者に気兼ねせず会話できるようにしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居契約時に説明を行い同意をいただくようにしている。契約内容に変更がある場合は、直接面会時などや、電話での説明をさせていただき同意を頂くようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居時に退去に至る場合の説明をして、同意を頂いている。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設時より地元の理解を得ている。以前は季節行事などに地域の方に参加していただき様子の説明をしていたが、感染症対策を始めてからは出来ていない		○		法人・事業所として、自治会に加入し、地域で行われる清掃活動や祭り、運動会等に参加して、地域との交流を図っている。また、事業所周辺を散歩時には、日常的に近隣住民と挨拶や会話を交わすとともに、近隣住民から野菜や果物の差し入れをもらうこともある。事業所近くには、農業体験移住宿舎があり、管理者は新しく入居した住民に挨拶に伺うことを予定している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の方にお会いしたら朝の挨拶や退社時に挨拶などをさせてもらっている。地域の奉仕作業・お祭りなどに参加させて頂いている。運営推進会議の際に近況の行事などを伺っている。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	以前と同様であるが、近隣の方との交流が行える状態になり、働きかけを行い、行事の支援を行う予定である。				
		d	地域の人気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	○	出会った際はあいさつなどをしている。遊びに来られる事はないが行事のお誘い等で気軽に立ち寄って頂けている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	隣近所の方と気軽に話しが出来る様な関係が築けている。地域の事などで相談しても優しく応対して貰っている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	今後、行事を行う際に近隣の方にお手伝いをお願いする予定である。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域の業者の方に食材を持ってきて頂いている。出張美容室を定期的に髪を切るために利用させてもらっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取 組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	最近まで書面開催であったため、運営推進会議が開催されていなかった。8月より近隣の方や家族・利用者・その他の構成委員も皆様に参加して頂いている状態である。	○	/	○	感染対策が続き、運営推進会議は書面開催が続いていたが、令和6年8月から対面形式の会議を開催できるようになっている。会議は、利用者や家族のほか、自治会長や民生委員、町担当者、駐在所所長等の参加を得て開催をしている。会議では前年度の施設目標や反省点、今年度の施設目標、行事予定、災害対策等を報告し、参加メンバーと活発な意見交換ができています。令和6年8月の会議の中で、「利用者や職員の顔や名前がわからない」と意見をもらったため、紹介の機会を設けることを予定している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	書面開催で自己評価や外部評価などの公表が不十分である。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	書面開催のみで行っていない状態であった。現在は、議題に合わせてメンバーを選んで参加者を募って開催している。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員間で話し合った理念を日常的に取り組めるように見える箇所に掲示している	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	フロア内に掲示して分かり易くしている。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者が職員一人一人に合った研修に参加できるようにしている	/	/	/	医師である代表者は、往診等で頻回に事業所に来訪があり、利用者や職員に声かけをしている。2か月に1回開催する法人の管理者会議にも代表者は参加し、事業所の運営上の事柄や利用者の状況等の情報を把握するとともに、管理者との意見交換が行っている。また、日々管理者は職員と一緒に業務に従事し、こまめに職員とコミュニケーションを図りながら意見や提案を聞き、より良いサービス提供に繋げられるよう努めている。職員から出された意見は、必要に応じて、管理者から法人の副部長に伝えて、代表者に伝えることもできるようになっている。さらに、人権等をテーマにした内部研修を実施したり、希望休や有給休暇の取得を促したり、管理者が気軽に相談に応じるなど、職員が働きやすく、高い意欲をもって働けるような職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT（職場での実務を通して行う教育・訓練・学習）を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	年間に行う内容大きく選びを、月の担当職員が議題を決めて行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	年に2回の個人評価を行い、話しを行う時間を設け、把握に努めようとしている。職員異動や人員確保が困難な状態が続き、個々のモチベーションの低下を感じている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。（事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加）	○	事業所で行う管理者会議や内子町連絡協議会に参加を行い、ネットワークづくりを行っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	以前は忘年会などがあったが、現在はしていない	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	虐待防止に関する研修に参加したり、勉強会で学ぶ機会を設けている。	/	/	○	業務カンファレンスや身体拘束委員会の中で、虐待防止をテーマにした勉強会を実施するとともに、発生防止に向けた話し合いやケアの振り返りを行い、職員の理解促進に繋げている。また、職員は不適切な行為が見られた場合の対応方法や手順を理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ケアカンファレンスなどで日々のケアを振り返るようにしている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員のストレスなどが利用者に影響する前に声をかけるやカンファレンス時にストレスと感じる事を話し合うようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取 組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会などで学ぶ機会を設けている。委員会で話し合った事を議事録にまとめ、回覧している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	委員会を定期的に開催し話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居契約の際に身体拘束での弊害を伝え、しないようなケアに取り組んでいることを説明している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	勉強会で学ぶ機会を設けているが十分な理解には至っていない。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	△	支援が必要になった際は連携体制が築ける橋渡しが必要であるが、現在は、使用が必要な方がいない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアル作成はしているが全員には十分には伝わっていない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	以前までは事業所合同で救急救命訓練を行っていたが、市町村で開催される訓練に新人職員に進んで参加して貰う程度にとどまっている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを元にケアカンファレンス等で話し合いをして再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	個々の状態を把握して、起こりうるものの可能性を話し合い、事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作成しているが、周知は十分ではない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情を頂いた際は、職員間で周知し改善や防止の話し合いをしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過と結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情を頂いた際は職員間で話し合いを行い、防止策を伝えるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	△	玄関に意見箱を設置しているが利用されていない。	○		○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望等を聞くとともに、出された意見は申し送りなどを活用して、職員間で情報を共有している。職員は利用者が感じたことを遠慮なく伝えられるように、日頃からコミュニケーションを図り、良好な関係を築くよう努めている。面会時や電話連絡の際に、家族から意見や要望を聞くようにしている。また令和6年7月から新たに赴任した管理者は、日々職員と一緒に業務に従事する中で、職員の意見や提案に耳を傾けながら信頼関係を築くように努め、利用者本位の支援が実践できるように取り組んでいる。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	玄関に意見箱を用意しているが利用されていない。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	事業所の副部長へ相談を行い、訪問が必要な際は現場へ訪問し、意見や要望・相談に乗って貰っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	業務カンファレンス時や年2回の評価時に話を聴く機会を設けている			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	ユニット全員で話し合い、自己評価に挑んでいる。				現在の管理者は、赴任してから初めての外部評価の受審であるものの、全ての職員が参画して、出された意見を取りまとめて自己評価を作成している。外部評価のサービスの結果や目標達成計画は、運営推進会議の中で報告をしている。今後は目標達成の取り組み状況について、会議の参加メンバーなどにモニターを依頼して意見をもらうなど、幅広い意見を収集するための方法を職員間で検討していくことも期待される。
		b	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価の結果を元に自施設の弱い所を見つけ、目標達成計画を作成している。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	ネットの評価機関で公表している。また、運営推進会議での結果報告をしている。	○	○	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	評価結果と目標達成計画等を運営推進会議内で報告している				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	各災害のマニュアルを作成し訓練に取り組んでいる				運営推進会議の中で、「南海トラフ地震が発生した時の備え」をテーマにして、会議の参加メンバーと活発な意見交換を行うなど、地域との協力支援体制の構築に向けて取り組んでいる。感染対策が続き、消防署の協力を得た避難訓練の開催は休止しているものの、火災や地震、土砂などの様々な災害を想定した避難訓練を実施している。また、利用者の居室前には、災害発生に備え、防災や蛍光仕様の札が掛けられ、災害発生時には利用者の避難完了を確認した場合には、取り外す仕組みづくりをしている。今後は、運営推進会議の中で参加メンバーに建物内を見学し、利用者の居室の場所や想定している避難経路を確認してもらうなど、より実践に即した合同訓練の実施や協力支援体制の構築に繋げていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画している。	○	火災に対する訓練は日中と夜間想定での訓練を行っている				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や避難経路は訓練時にチェックしている。非常食などは持ち出しリストなどを作成している				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	近隣の住民や消防署の方に来て頂き訓練を行う予定である。	○	◎	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	運営推進会議時に避難場所などの相談を行っている。訓練を行うに至っていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域新聞で情報を発信しているのみで行っていない。				地域の自治会館に、事業所のパンフレットを置かせてもらったり、2か月に1回、回覧板に入る地域新聞の中に、事業所の相談支援を掲載したりするなど、地域に情報を発信している。管理者と職員は、地域の清掃活動等に参加協力をしたり、中学生の職場体験の受け入れに協力したりするなど、地域との交流を図りながら、貢献をしている。また、管理者は内子町グループホーム連絡協議会に参画し、会議の参加者と一緒に意見交換や情報共有を行うなど、平時から関係機関と密な連携が図れるように努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域新聞や運営推進会議の際に呼びかけを行っているが不十分である。		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の人たちが集う場所として事業所の開放は行っていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	受け入れる体制はあるが、発信不足で要望が無い。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	組内に加え、地域の道作りや地区の運動会に参加している。中学校から要請がある際は職場体験なども以前は行っていた。現在は要請がない。			○	